

中部電力株式会社社長 水野明久 様

浜岡原発の永久停止及び使用済み核燃料の安全管理に対する要請

本年3月11日に発生した三陸沖を震源とする大地震と大津波により、福島第一原発の爆発事故が発生し、大気中や海中に大量の放射性物質が放出されました。事故の処理においては、現在に至っても収束の目処さえ立っていません。

この事故により、周辺住民の土地、仕事、生活が奪われました。農畜産業、漁業などへの影響は、そこに働く人々の生活を破壊するばかりではなく、食料問題、経済問題にも発展しています。微量とはいえ放射性物質を含んだ食料を摂取することで、子供たちの将来の健康も危ぶまれています。さらに、事故収束のために働いている多くの作業員の命は危険にさらされています。福島から遠く離れた静岡県でも、茶葉から放射性物質が検出されるなど、汚染は地元だけの問題ではありません。

一方、ドイツ、イタリアでは脱原発の動きが具体化しました。当該国である日本は、地震大国で最も危険な場所に原発が建設されており、本来なら先手を切って脱原発を表明しなければなりません。日本世論調査会が6月11、12日に実施した全国世論調査では、82%の国民が脱原発を望んでいることが分かりました。例えば政府が脱原発の政策を取らなくとも、原発を所有する企業こそが率先してエネルギーの転換を打ち出すべきだと考えます。

浜岡原発は、現在運転停止中ですが、津波対策として建設する防波壁が完成すれば運転を再開するとしています。しかし、この防波壁が津波対策に効果があるとは思えません。このような状況の中、川勝平太静岡県知事は、9月12日の定例記者会見で「(浜岡原発にある)使用済み核燃料が処理される目処が立つまでは再起動すべきではない」と述べました。また、牧之原市は9月26日の定例議会本会議で、浜岡原発の永久停止を決議しました。中部電力は「核のゴミ」問題をどう解決しようとしているのでしょうか？住民には全く明らかにしていないではありませんか。

1854年の安政東海地震では地盤が2m隆起した記録があるといます。浜岡に原発を建設してはならなかったのです。「東海地震が想定外だった」では許されません。浜岡原発が爆発事故を起こせば、避難民は2千万人以上もの規模です。浜岡は「第二の福島」と、多くの学者・知識人が警鐘乱打しています。

中部電力は、以上の内容に真摯に耳を傾け、直ちに浜岡原発を永久停止するべきです。また、現在保管されている使用済み核燃料の安全管理についても、大地震・大津波を前提とした対策を取るべきです。

私たち、10.23シンポジウムin静岡「NO!浜岡・NO!リニア」参加者一同は、本日開催したシンポジウムで、リニアの電力供給ともなり得る浜岡原発の永久停止及び使用済み核燃料の安全管理を中部電力に要請することを全体で確認しました。

以上、要請します。

2011年10月23日

10.23シンポジウムin静岡「NO!浜岡・NO!リニア」参加者一同